

## 【書評】

# 朱文富 何振海 著 『外国短期高等教育史』

陸素菊  
華東師範大学教育学部

河北大学教育学院の朱文富教授、何振海教授などの学者が力を合わせて書いた『外国短期高等教育史』は2019年に人民出版社から出版された。国家社会科学基金教育学一般プロジェクト（BOA 13114）の最終研究成果として、主要先進国の短期高等教育の発展過程を全面的に体系的に整理し、短期高等教育の属性、機能、価値及び一般発展規則をより深く分析した。出版後、中国教育学界から肯定され、「中国教育新聞」「中華読書報」など新聞に刊行して紹介された。

『外国短期高等教育史』の全文は46万字で、国別史の叙述方式を採用し、研究対象を米国、日本、イギリス、フランス、ドイツ、カナダ、オーストラリアなど7つに焦点を当て、関連文献史料の十分な解説を通じ、短期高等教育分野で突出した成果と典型的な特徴を持つ先進国の短期高等教育の発展過程を示している。この本の章は次のように配置されている。

### 前 言

#### 第一章 米国短期高等教育史

##### 第一節 19世紀末から第二次世界大戦までの米国初級学院の発生と発展

##### 第二節 第二次世界大戦後から1970年代までの米コミュニティカレッジの盛んな発展

##### 第三節 1980年代から、米国コミュニティカレッジの改革と完備

#### 第二章 日本における短期高等教育史

##### 第一節 米軍占領時代の日本短期大学の誕生

##### 第二節 日本経済の回復期と高度成長期の高等専門学校の創立と短期大学の恒久化

##### 第三節 日本経済の低速成長時期における専門学校の設立と短期高等教育システムの形成と発展

##### 第四節 1990年代以来の日本短期高等教育の改革と発展

#### 第三章 イギリスにおける短期高等教育史

##### 第一節 19世紀から第二次世界大戦前までのイギリス短期高等教育の基礎

##### 第二節 第二次世界大戦の終わりから1980年代までのイギリス短期高等教育の初興と発展

##### 第三節 1990年代以来のイギリス短期高等教育の充実

#### 第四章 フランスにおける短期高等教育史

##### 第一節 第二次世界大戦後のフランス短期高等教育の創建

##### 第二節 1980、90年代のフランスの短期高等教育の壮大

##### 第三節 21世紀に入ったフランス短期高等教育

##### 第四節 フランス短期高等教育の経験、困惑及び未来展望

#### 第五章 ドイツにおける短期高等教育史

- 第一節 1960年代ドイツ高等教育の構造転換と高等専門学院の誕生
- 第二節 1970年代の法律保障の下でドイツ高等専門学院の着実な発展
- 第三節 1990年代のドイツ統一後の高等専門学院の拡張と変革
- 第四節 2000年代以来のドイツ応用科学技術大学の学位改革と管理革新
- 第五節 デュアルシステムモードの駆動によるドイツ職業学院の台頭と発展
- 第六章 カナダにおける短期高等教育の歴史
- 第一節 1990年代初頭のカナダのコミュニティカレッジの初見
- 第二節 第二次世界大戦後から1960年代までのカナダのコミュニティカレッジの盛んな発展
- 第三節 1970年代からカナダのコミュニティカレッジの着実な発展
- 第四節 1990年代からのカナダのコミュニティカレッジの改革と発展趨勢
- 第七章 オーストラリアにおける短期高等教育史
- 第一節 オーストラリアの高級教育学院の盛衰
- 第二節 オーストラリアの技術と継続教育学院の創立と繁栄
- 結語 外国の短期高等教育の歴史的省思
- 第一節 短期高等教育の歴史的変遷、主な機能及び実践価値
- 第二節 先進国の短期高等教育発展の歴史経験
- 第三節 我が国の高等職業教育発展への示唆

本書は現代の高等教育システムにおける短期高等教育の属性特徴、機能定位、価値表現などについて述べている。この本によると、短期高等教育は高等教育の大衆化の中で成長・拡大してきた伝統的な4年制大学とは異なる新しい高等教育機関であり、その学制は普通2-3年で、主に中・高級職業技術人材の育成を目指している。ユネスコが発表した「国際教育標準分類法」では、短期高等教育を全9級教育のうち第5級に分類し、高等教育の第1段階に位置づけている。短期高等教育は19世紀末、20世紀初頭のアメリカで始まったが、大規模な発展は第二次世界大戦後からである。第二次世界大戦後、西洋の主要国は高等教育発展の黄金期を迎え、入学人口の急増、職業の類型と階層の多様化に伴い、伝統的な4年制大学だけでは社会的ニーズを満たすことができなくなった。このような背景の中で、中等教育と伝統的な4年制大学教育の間に位置する短期高等教育が新型高等教育機関として、世界各国の高等教育の舞台でより普遍的になってきた。その中で、米国のコミュニティカレッジ、日本の短期大学・高等専門学校・専門学校、英国の技術アカデミー、フランスの技術アカデミー、ドイツの高等専門学校などが代表的だった。また、カナダ、オーストラリア、そして多くのヨーロッパの国々では、伝統的な大学とは別の短期高等教育機関が20世紀後半に続々と設立された。短期高等教育の大規模な発展に伴い、その教育機能と社会価値は日々明らかになってきた。まず、伝統的な4年制大学に高等教育を統一される諸国の伝統教育構造を破り、高等教育の多元構造の形成を推進し、各国の高等教育の大衆化と普及化を円滑に実現するための新鋭軍となった。次に、現代工業と科学技術の発展に必要な中高級職業技術人材を大量に社会に送り出し、各国の経済と社会の発展を大いに推進した。更に、現代の高等教育社会サービス機能のカバー領域と実現経路を大幅に開拓し、コミュニティに立脚し、コミュニティに向かって、コミュニティサービスの優位性を発揮することによって、コミュニティの総合的な発展を効果的に促進した。

この本は、外国の短期高等教育発展の歴史的脈絡を全面的に系統的に提示し、著者の分析を通じて、読者に短期高等教育発展の重要な意義を十分に認識させ、短期高等教育発展の一般法則を把握することを目指している。この目的を達成するために、この本は力を入れて以下の方面の特色を際立たせた。

第一に、短期高等教育の起源である 19 世紀末と 20 世紀初めの「アメリカ初級学院運動」の振り返りに基づき、1960 年代以降の諸外国短期高等教育の大規模な発展の歴史的状況を重点的に述べる。記述の連続性を保持し、各国間の比較を容易にするため、各国別に記述する形式をとり、米国、日本、英国、フランス、ドイツ、カナダ、オーストラリアなどの先進国の短期高等教育に及んだこと。

第二に、短期高等教育の政策、制度、授業内容と教育方法などの内部要素を研究し、また政治、経済、科学、文化の伝統重視などの短期高等教育発展を影響する外部要素をも研究し、その上で、各種類の関連要素のインタラクティブ関係を深く解釈したこと。

第三に、短期高等教育のあり方の検討、および短期高等教育と中等教育と大学との関係の変化を検討したこと。

第四に、歴史研究と豊富な史料の把握に基づいて、諸外国短期高等教育発展の歴史的経験を精練と総括し、諸外国短期高等教育発展の現状と発展傾向について深く分析すること。

特筆すべきは、外国の教育史の著作として、この本は主要先進国の短期高等教育の歴史的脈絡を完全に整理することを求めているほか、強烈な現実意識を体現している。同書によると、近年、政府と社会各界の強力な推進のもと、中国の職業教育、特に高等職業教育事業は長足の進歩を遂げた。例えば、中国教育部が 2017 年に発表した統計データによると、2016 年までに、中国の高等職業教育の主要実施機関である高職高専学校は 1359 校で、在校生数は 1083 万人で、それぞれ、中国の高等学校数の 52.3% と在校學生総数の 40.2% を占めている。学校の規模と就学人数から見れば、達成は明らかに肯定的である。しかし、この本は成績を見ると同時に、中国の高等職業教育の発展がまだ深刻な不足、特に学校運営のレベルと品質に更に注目すべきであることを指摘した。

例えば、高職大学卒業生は普通の高等教育への進学が難しいこと、高等職業教育と普通高等教育は効果的に融合できないこと、高等職業教育は学校運営モデルが「縮小された四年制大学」と非難されるように高等職業教育の受験生に対する吸引力が不足のことなど。この本の著者は高等職業教育の発展の短板を補うためには、視野を広げ、世界に目を向け、歴史の角度から、他の国、特に先進国の短期高等教育の経験と教訓を全面的に総括し、中国の高等職業教育の改革発展に参考を提供する必要があることを深く認識している。このような認識に基づいて、この本は歴史研究を土台として、改革提案を提出した、例えば、高等職業教育の現代の高等教育システムにおける位置の確立、高等職業教育と普通教育との関係、高等職業教育の産業とコミュニティへのサービス機能の発揮等について提案した。

外国の短期高等教育の発展過程を全面的に体系的に研究する中国初の学術著作として、『外国短期高等教育史』は理論と実践、マクロとミクロ、国際と国内、歴史と現実を良く統合した著しい学術価値と実践意義を持つ高レベルの学術著作である。(人民出版社、2019 年 12 月発行、470 頁、定価 65 元)